

記者会見冒頭説明要旨

今回、関西の景気については、「基調としては緩やかな拡大を続けているものの、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響がみられている」と判断しています。感染症拡大の影響については、1月末以降、中国人客を中心に、当地を訪れるインバウンド客が減少しており、旅行のキャンセルの動きも広がっています。中国便の欠航も続いており、当地におけるインバウンド消費は、今後の感染の状況に左右されますが、目先、弱めの動きとなることが見込まれます。この間、輸出と生産は弱めの動きとなっていますが、IT関連財では持ち直しの動きがみられています。また、設備投資や個人消費といった内需は堅調です。景気判断のポイントは以下の3点です。

第一に、インバウンド消費についてです。当地のインバウンド消費における中国人客のウエイトは大きく、中国の春節期間は例年インバウンド消費が大きく伸びる時期ですが、今年は、春節期間の免税売上が大きめに減少したほか、足もとにかけて、免税売上の減少幅が大きくなっているとの声も聞かれているところです。当地を訪れる中国便の欠航の動きも広がっており、小売や宿泊業など、インバウンド関連業種からは、インバウンド消費の回復は、新型コロナウイルス感染症の終息次第との声も聞かれているところです。問題の終息に至る過程など、インバウンド消費の動向については、今後とも、よくみていきたいと思えます。

第二に、輸出・生産についてです。ITサイクルの好転なども背景に、海外需要は増加基調に復していくものとみえますが、海外経済を巡る不確実性は引き続き大きく、その動向をよくみていきたいと思えます。なお、感染症拡大による輸出・生産面への影響については、これまでのところ、大きな影響は生じていないとの声が聞かれています。問題が長期化すれば、中国の経済活動が抑制されることによる輸出への影響や、サプライチェーンを通じた生産への影響などが考えられることから、その動向については、よくみていきたいと思えます。

第三に、設備投資や個人消費など内需についてです。設備投資は、研究開発を含め、企業の積極的な投資スタンスが維持されているとみえますが、海外経済を巡る不確実性などが、そうした姿勢に影響を及ぼさないか、よくみていきたいと思えます。個人消費については、良好な雇用・所得環境を背景に、総じてみれば緩やかに増加していますが、暖冬や、感染症拡大を懸念した外出控えなどの影響も一部で聞かれていますので、増加基調に変化がみられないか、よくみていきたいと思えます。

先行きのリスク要因としては、保護主義的な動きの帰趨とその影響、中国をはじめとする新興国・資源国経済の動向、グローバルなIT関連財需要の動向、地政学的リスク、新型コロナウイルス感染症の動向とその影響、国際金融市場の動向、それらが企業や家計のマインドに与える影響なども注視していく必要があります。